

2014年 4月 22日

日本の若者が政治をより良くしていく！

「18歳選挙権の早期実現」を目指している 本法案に対する賛成意見陳述

一般社団法人リビジョン代表理事
ティーンズライツムーブメント発起人
慶應義塾大学大学院法学研究科(修士課程)在籍

齋木 陽平

【齋木陽平 ご連絡先】

MAIL : info@revisionjapan.com

TEL : [080-2344-2971](tel:080-2344-2971)

<https://www.facebook.com/yohei.saiki.1>

事務所：

東京都渋谷区代々木1丁目57-2

ドルミ代々木608



TR

TEEN'S
RIGHTS
MOVEMENT

政治を動かす、 新たな力を。

十八歳選挙権実現運動

Teen's Rights Movementは若者世代が団結し、未来を生きる当事者として日本の未来を真剣に考えていく場を目指して、高校生が中心となって行っている活動です。その第一歩として18歳選挙権実現の運動を多数の政治家と連携して行って参りました。

私たちのミッションは

- ①若者世代の社会参画の拡大、
- ②政治教育の普及、
- ③その手段としての「18歳選挙権」の実現
です。

<http://teensrights-movement.jp>

これまで「一般社団法人リビジョン」の活動にご参加・ご協力頂いた皆さま

◆ 共同発起人

- ・ 安倍昭恵 首相夫人

◆ 過去のイベント参加者

- ・ 逢沢一郎議員（自由民主党）
- ・ 安倍晋三議員（自由民主党）
- ・ 片山さつき議員（自由民主党）
- ・ 世耕弘成議員（自由民主党）
- ・ 宮川典子議員（自由民主党）
- ・ 森まさこ議員（自由民主党）
- ・ 津村啓介議員（民主党）
- ・ 細野豪志議員（民主党）
- ・ 蓮舫議員（民主党）
- ・ 畠中光成議員（結いの党）
- ・ 田村智子議員（日本共産党）
- ・ 高橋亮平氏（NPO法人Rights代表理事）
- ・ 田中治彦氏（上智大学 総合人間科学部 教育学科 教授）
- ・ ハリス鈴木絵美氏（Change.org 日本代表）
- ・ その他多数



★ 今後もたくさんの高校生と行動を続けて参りますので、みなさまと共に18歳選挙権 実現に向けた活動ができればと存じます。

★ のべ1000人の高校生がイベントに参加！模擬投票には1万人が参加！計7回のイベントを衆議院第一議員会館多目的ホール／参議院議員会館で開催！！

18歳選挙権早期実現を目指す3つの理由

◆ 権利と責任はセットだからこそ、18歳選挙権の早期実現を！

- 日本の国家予算は赤字国債や建設国債に大きく依存しています。特に赤字国債は、将来世代の負担であって現役世代の負担ではありません。赤字国債という形で「負担」ばかり強いられているのは寧ろ不公平であり、18歳選挙権という形で「権利」を付与することが重要であり、こうした不公正を正していくことが、若者の政治離れを防いでいく事にも繋がると考えます。

◆ 若者の政治的判断能力を育てていくために、18歳選挙権の早期実現を！

- 18歳選挙権の実現は、政治教育を行っていく、非常に大きなキッカケ作りになります。18歳選挙権が実現すれば、高校3年生が選挙に参画することになり、高校に「政治」の話題がおりていくことになる。
- また、高校生は親との同居率も高く、住民票も地元にあるため、選挙に非常に行きやすいことが挙げられます。
 - 実際にドイツでは10代の投票率は20代とくらべて20%以上高い数値が出ている（次ページ参考図1）。
- 一度選挙に行く経験をさせることは、政治への参加や興味関心を強くし、政治的な成熟度を引き上げる効果が見込める。それを高校でサポートできることは非常に重要なポイントである。
 - これもオーストリア・ノルウェーで高い引き上げ効果が出ている（次ページ参考図2～4）。

◆ 改憲派・護憲派のどちらが「絶対的に正しいわけではない」、だからこそ若い世代を含めた国民的関心を喚起するべき。そのためにも18歳選挙権の早期実現を！

- 憲法に対して、様々な考え方があって良いと思います。日本国憲法はまさに国家の最高法規であり、私たちの自由の基礎法でもあります。その憲法に対して、国会議員の皆様には様々な考え方があり、信念があり、いずれも立派な考え方だと思えます。
- その国民投票法の投票年齢が18歳になることは大変望ましいことであるし、そしてそのためには、選挙権年齢を18歳選挙権に引き下げることを同時に行うことによって、さらに高い効果が得られると考えます。さらに言えば、国家の最高法規である憲法に18歳が投票できるのに、国政選挙には参画できないというのは、どう考えても違和感が残ります。

図1

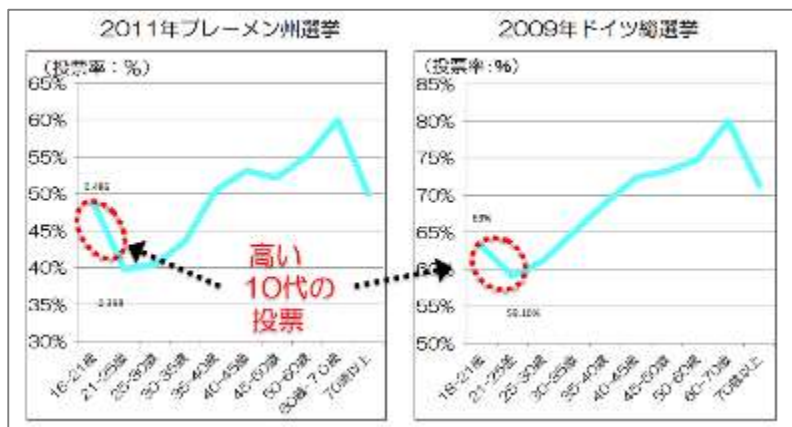


図2

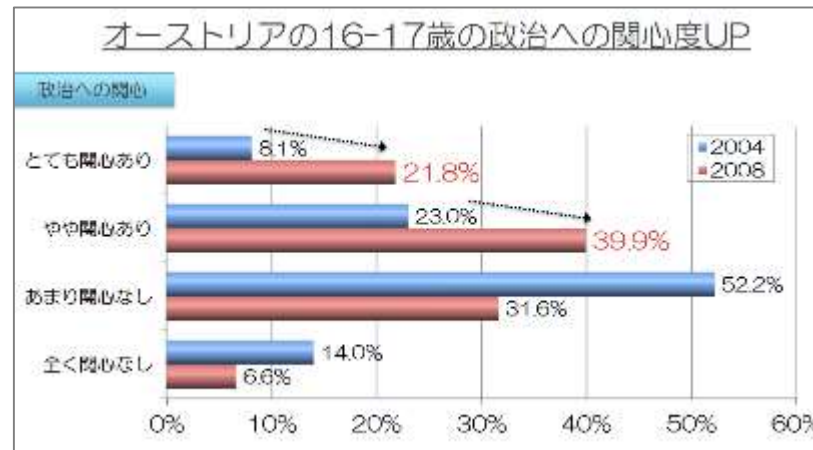
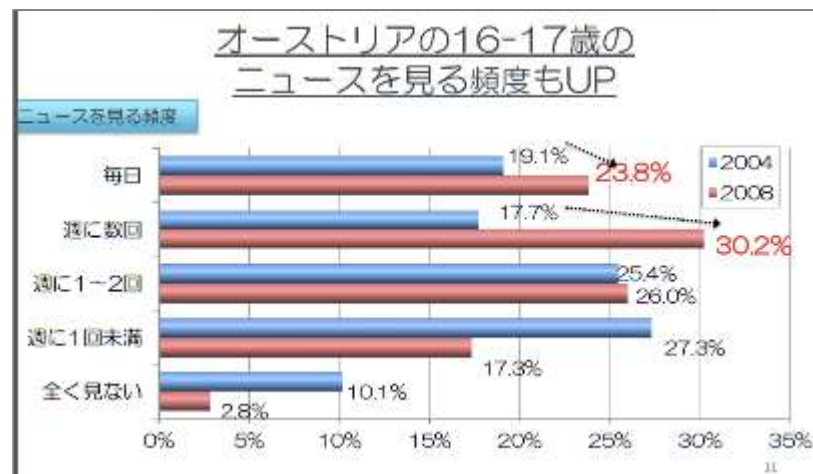


図3



図4



留意すべきこと

◆ 成人年齢と選挙権年齢は切り離して考えるべきです。

- ・ 成人年齢の引き下げには、200以上の関連法案（飲酒・喫煙・少年法など）の改正を考えなければなりません。民主主義の成熟の観点から、意義の大きい選挙権年齢の引き下げを優先して議論すべきだと考えます。
- ・ もし成人年齢の引き下げと合わせて行った場合に、目標とする改正年限を達成できなくなるのではと強い懸念を感じております。

◆ 若い世代に、もっと政治家の実態を伝えたい。

高校3年生が触媒になって若い世代に声を届けてくれます。

- ・ 一般的な若い世代に「政治家」はダークなイメージ（お金に汚い、醜い権力闘争）を持たれてしまっています。しかし実際には、政治家の皆さんは一生懸命努力をされています。人生を懸けて、朝早くから、夜遅くまで、様々な地域や現実の政治課題解決のために、這いずり回っておられます。そうした、政治家の皆さんの実態をもっともっと若い世代に伝えていき、開いていくことがとても大切だと、私は思っています。

18歳選挙権引き下げのためのプロジェクトチームを、 ぜひお手伝いさせて頂きたいです。

2014年夏、3回目となる「Teen's Right Summit」を再び多くの高校生と開催致します。若者の声を皆さまに伝えること・皆さまの思いを若者に届けること、一般社団法人リビジョンがそのお手伝いをさせて頂ければ幸いです。ぜひプロジェクトチームと共に、シンポジウム/作業部会をやらせて頂ければと存じます。